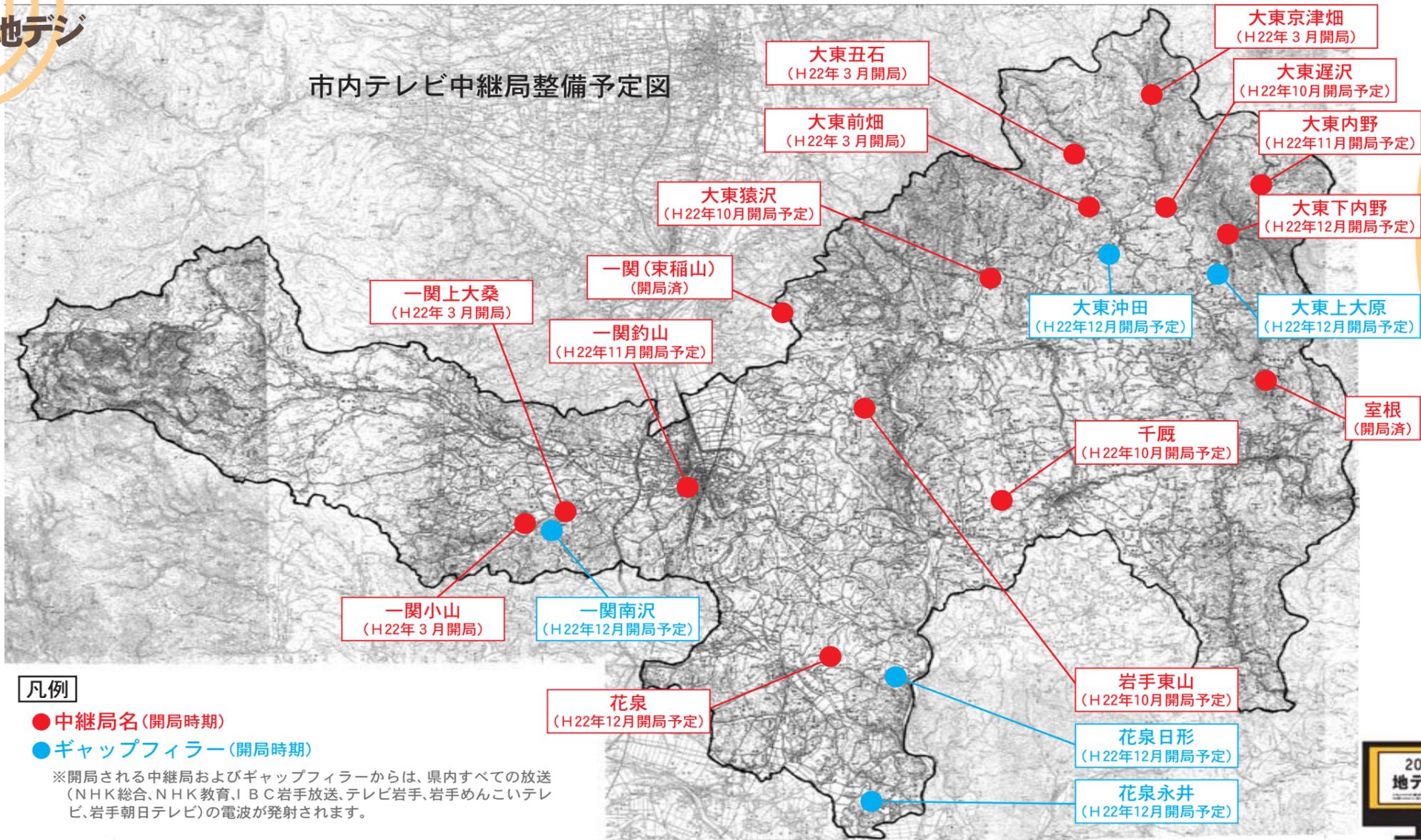


市内テレビ中継局整備予定図



凡例

- 中継局名 (開局時期)
- ギャップフィラー (開局時期)

※開局される中継局およびギャップフィラーからは、県内すべての放送 (NHK総合、NHK教育、I BC岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ) の電波が発射されます。

市民の皆さんから、「せっかく地デジ対応テレビを購入しても、放送が映らないじゃないか」といった声が多く寄せられます。市内には、テレビ中継局が24カ所ありますが、現在地上デジタル放送の電波を発射している中継局は一関(束稲山)と室根局(室根山)の2カ所です。これまで市内中継局のデジタル化について、放送事業者と協議を進めてきました。その結果、市は整備費の支援や地域インターネットの光ケーブルを活用することで、中継局の開局を推進しています。共同アンテナで電波を受信する共同受信施設組合にも整備費を支援し、順調に改修整備が進められています。



完全地デジ化 480日前です

テレビ放送を変える理由は

1 電波の有効利用

地上アナログ放送は、画面のちらつきや雑音などが起きやすく、また、放送を行うために多くの電波を必要とします。これに対して、地上デジタル放送は、情報の圧縮などが簡単にできるため、高画質、高音質の番組を視聴できます。少ない電波で放送することができ、ため、重要な情報端末となり

3 情報化の恩恵をすべての人に

また、地上デジタル放送の特徴の一つとして、携帯電話などでテレビを見ることができるよう「ワンセグ」サービスが利用できます。ワンセグは、緊急災害時に電話が混み合ってしまった状況でも確実に情報を受信できるため、重要な情報端末となります。

2 放送サービスの高度化

アナログ放送では、画面のざらつきなどがありながらも何とか映っていたものが、デジタル放送では、「映る」か「映らない」かのどちらかになります。

テレビは全国のほとんどの世帯に普及しています。国では、そのテレビをデジタル化することによって、年齢・性別問わず、その恩恵を受けられる社会を目指しているのです。従来のテレビ放送だけでなく、リモコン操作で、ニュースなどさまざまな情報を文字で簡単に得ることが可能になります。

テレビ中継局の整備

市内には現在、24カ所のアナログ中継局があります。一関市は、県内2番目の面積を有するため他市に比べて中継局が多く存在し、その中継局は、放送事業者 (NHK盛岡放送局および民放4社) が事業主体となっており設置されているものがほとんどです。現在、市内の中継局で地上デジタル放送の電波を発射しているのは、一関(束稲山)と室根局(室根山)の二つの中継局となっています。

待ちわびた中継局の開局

放送事業者では、現在のアナログ中継局を順次、地上デジタル放送対応に切り替えています。多くの費用がかかることから、なかなか整備が進んでいませんでした。市はこれまで、放送事業者と中継局施設のデジタル化整備の推進について協議を進めてきました。その結果、地域インターネットの光ケーブルを活用し、中継局間でテレビ信号を送受信するネットワークの構築を行うこ

開局される中継局は、すべての放送が映るようになります。NHKしか放送されていなかった中継局は廃止されますが、その地域には、ギャップフィラー (小型の送信機) などで現在のアナログ放送の視聴可能エリアをカバーします。

※地域インターネット：市が18年に市内公共施設182カ所を光ケーブルで結んだネットワーク化事業
※ギャップフィラー：難視聴対策用の小規模な無線装置